

MEDICAL NOTICE

2024年 10月号

発行
フィルタス株式会社

医療経営の知識

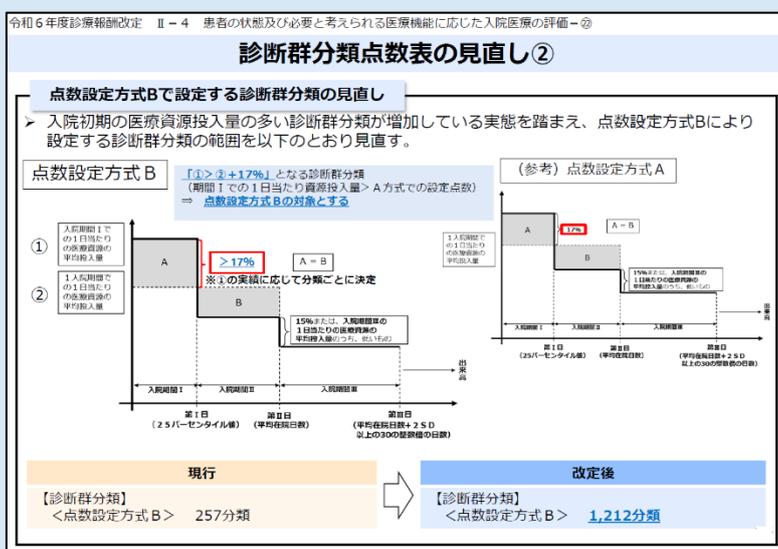
令和6年度診療報酬改定項目：入院医療（DPC）

今回は令和6年度改定においても様々な変更がされた「DPC/PDPS」関連の項目から、重要な項目を2点ご説明します。

【診断群分類点数表の見直し】

診断群分類については、例年通りに見直しは実施され、新たな傷病名や分岐の設定や定義樹形図の簡素化がなされています。大きな変更点としては、入院期間 I の点数を高く評価した「B方式（1212分類）」や「E方式（新設：47分類）」の点数設定方式の診断群分類が各段に増加しています。

医療機関としては、適正なコーディングに基づいた在院日数の管理がより一層重要となっています。



【医療の質指標（病院情報の公表）】

DPC医療機能係数（機能評価係数II）の中にて、病院のHP内にてDPCデータ等を公表・説明することでの評価があります。

今回の改定では更に「医療安全、感染管理、ケア」の「医療の質」に関わる指標の公表・説明について評価がなされます。

「血液培養2セット実施率」等は、既存データ（E、Fファイル等：医事会計入力データより作成）から抽出される項目であるため、正確な医事会計入力・確認が重要です。

また、「転倒・転落発生率」等の新規項目については様式1等の調査項目を増加する対応がなされています。

令和6年度診療報酬改定 II-4 患者の状態及び必要と考えられる医療機能に応じた入院医療の評価-②

（参考）データ提出及び公表を評価する医療の質指標

医療の質指標（3テーマ9指標）

テーマ	指標	既存データ項目の活用	データ提出の評価対象（※1）	公表の評価時期（※2）
医療安全	転倒・転落発生率	×	○	令和8年度～
	転倒転落によるインシデント影響度分類レベル3b以上の発生率	×	○	令和8年度～
	リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率	○	×	令和7年度～
感染管理	血液培養2セット実施率	○	×	令和7年度～
	広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率	○	×	令和7年度～
	手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与率	×	○	令和8年度～
ケア	d2（真皮までの損傷）以上の褥瘡発生率	×	○	令和8年度～
	65歳以上の患者の入院早期の栄養アセスメント実施割合	×	○	令和8年度～
	身体的拘束の実施率	×	○	令和8年度～

（※1）該当する指標に対応する調査項目を新設する
（※2）集計方法等の詳細については、「病院情報の公表の集計条件等について」において公表



医療事務の知識

長期収載品の選定療養（特別の料金支払い）

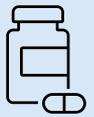
今回は、令和6年10月から開始される「長期収載品の選定療養（特別の料金支払い）」について取り上げます。

※ 本内容の詳細については、厚労省 HP「後発医薬品のある先発医薬品（長期収載品）の選定療養について（https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39830.html）」をご参照ください。

■ 長期収載品とは？

後発医薬品がある先発医薬品にて、一定期間経過や後発医薬品への切り替えが進んでいるもの。

※ 事務通知にて、対象医薬品リスト提示あり



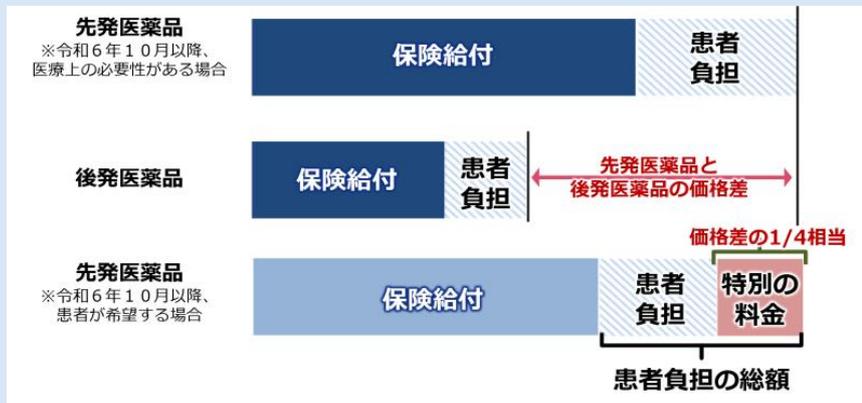
■ 長期収載品の選定療養

患者さんの希望で長期収載品に該当する先発医薬品を処方された場合は、患者さんは「特別の料金支払い」が必要になります。

特別の料金については、「先発医薬品と後発医薬品の価格差の4分の1相当の料金」とされています。

例) 先発医薬品：1錠100円、後発医薬品1錠60円の場合、価格差1/4の10円を通常の保険診療による負担金と別に支払う（残りの薬剤料金は、保険診療における負担割合で按分）

※ 事務通知の長期収載品リストに、各医薬品の該当金額は明示されています。



■ 処方理由（医療上必要、患者希望等）による区別

「医療上の必要性がある場合」や「流通の問題（後発品の在庫がない）」場合については、「特別の料金」の対象となりません。処方箋の様式が変更されており、先発品からの変更不可時には「医療上必要」「患者希望」を区別してのチェック（レ又は×）が必要となります。

変更不可 (医療上必要)	患者希望	個々の処方薬について、医療上の必要性があるため、後発医薬品（ジェネリック医薬品）への変更には差し支えがあると判断した場合には、「変更不可」欄に「レ」又は「×」を記載し、「保険医署名」欄に署名又は記名・押印すること。また、患者の希望を踏まえ、先発医薬品を処方した場合には、「患者希望」欄に「レ」又は「×」を記載すること。

また、「医療上の必要」等として「特別の料金なし」での処方をされた場合には、レセプト請求時には詳細な理由を選択式コメントで入力する必要がありますので、ご注意ください。

査定例・算定例

《 眼処置の算定について・留意事項 》

Q
uestion

角膜異物除去の前にベノキシールを点眼し、異物除去の後にタリビッド軟膏を塗布してガーゼを当てました。角膜異物除去術と眼処置を算定したのですが、眼処置を査定されました。タリビッド眼軟膏塗布とガーゼを当てただけでは眼処置は算定できないのでしょうか？

A
nswer

A. 手術に伴って行った処置は手術の所定点数に含まれます

手術前の「ベノキシール点眼」は手術のための表面麻酔です。また、異物除去後のタリビッド眼軟膏は「抗菌薬」であり、術後の感染予防のために塗布されているものと思われます。これらは「手術に伴っておこなった処置」であり、眼処置としては算定できません。

また、点眼・眼軟膏の塗布では眼処置は算定できませんので、併せてご注意ください。J086 眼処置の注・留意事項及び事務連絡により規定されていますので、ご確認いただけますと幸いです。

体のしくみ

【食欲の秋とからだのしくみ】

今年の夏も猛暑でしたが、ようやく涼しい秋の訪れを感じるようになってきました。そうすると不思議と食欲がわいてきて、何でも美味しく感じるようになりますよね。なぜ、秋になると食欲が増すのでしょうか。美味しいものの多い季節だから、ともいえますが、実はからだのしくみが関係しているのです。

【幸せホルモン「セロトニン」の減少】

日光を浴びると、私たちの脳はセロトニンと呼ばれる別名幸せホルモンを分泌します。セロトニンには「精神の安定」と「食欲の抑制」という2つの働きがありますが、日照時間の短くなってくる秋にはセロトニンの分泌量が減り、食欲が増してしまふといわれています。

【気温の低下で基礎代謝アップ】

秋になって気温が下がってくると、体温を維持するために熱を作ろうとして基礎代謝が上がるので、エネルギーを使い食欲が増します。また、寒い冬に向けて体温を一定に保つためのエネルギー源を確保するために、できるだけ食べておくという本能も働きます。

【夏バテからの回復】

秋になると暑さで弱っていた体が回復し、消化器官も正常の働きを取り戻すので、食欲が戻ってきます。

【食欲の秋】にはからだのしくみが影響していることがわかりましたが、食欲の秋ばかり堪能していると太ってしまうのも心配です。涼しくなって体を動かすのも楽しめる季節です。寒い冬を迎える前に運動で基礎代謝を上げたり、日光を浴びてウォーキングをしたりして、バランスよく秋を満喫しましょう。

病名辞典



「G」

【リウマチ（関節リウマチ）】

免疫の異常により、主に手足の関節が腫れたり痛んだりする病気です。進行すると関節の変形や破壊が引き起こされ、日常生活が大きく制限されます。また炎症は関節だけでなく、目や肺などの全身に広がることもあります。

【原因】

いまだに原因はよくわかっていません。人の体には細菌やウイルスなどから体を守るしくみ（免疫）がありますが、このしくみが異常を起こし、関節を守る組織や骨、軟骨を外敵とみなして攻撃し、壊してしまうために起こります。これを自己免疫性疾患といいます。

【どんな人がかかりやすい？】

関節リウマチというと、高齢の方の病気というイメージがあるかもしれませんが、これは手足の変形などの目に見える変化が、年齢を重ねてから現れることが多いために定着したイメージと考えられます。実際には、30代〜50代の、特に女性の発症が目立つ病気です。

【主な初期症状】

- ・ 朝のこわばり
- ・ 関節の痛みや腫れ
- ・ 微熱、倦怠感、食欲不振

【治療】

関節リウマチは、早期の治療開始が大変重要です。薬物療法が中心で、抗リウマチ剤と非ステロイド性消炎剤を基本とし、症例によってはステロイド剤、免疫抑制剤、生物学的製剤が用いられます。補助療法として、ステロイド剤やヒアルロン酸製剤の関節内注射や、リハビリテーションも有効です。薬物療法やリハビリで十分な効果が得られない場合は、手術が必要になる場合もあります。



医療・医学の知識 【 ミトコンドリアと解糖系エネルギー 】

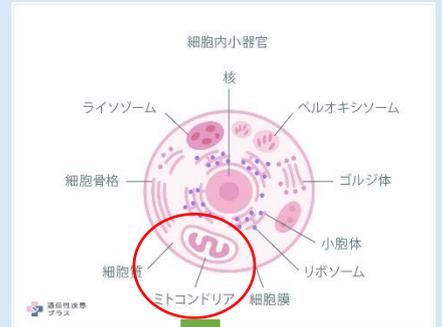
今月号では、細胞の営みにおいて、まさに司令塔のような役割をしており、現在でも世界中で盛んに研究が行われている「ミトコンドリア」について、そのエネルギー生成と「解糖系」エネルギー生成との比較を交えて取り上げたいと思います。

ミトコンドリアは、細胞内に存在する小器官です。1細胞あたり100個から2000個程度含まれます。ミトコンドリア内には細胞核とは別に、独立したDNA（ミトコンドリアDNAと呼ぶ）が存在しているそうです。

そのミトコンドリアDNAは、エネルギー生成に重要な遺伝情報を持っていて、細胞内におけるエネルギー(ATP)生成の役割を担っていて、運動を行う際に、筋肉を収縮させるためのエネルギーの大部分が、ミトコンドリアによる有酸素性エネルギー代謝により作り出されるそうです。

有酸素のエネルギーである**ミトコンドリア**は脳神経や心筋、骨格筋などの筋肉に多くあり、酸素を使って高体温の環境で活発に動きます。一方、**解糖系**は、糖質を分解することでエネルギーを生み出し、酸素を使わず、低体温の環境で働きエネルギーを生成します。ピルビン酸を経由して乳酸をつくり出す過程で、脳のエネルギーであるATPを瞬時に作り出します。骨格筋（白筋）、精子、再生上皮細胞、骨髄細胞、**ガン細胞など分裂の盛んな細胞は、解糖系のエネルギーを主体に活動**します。

ストレスによって交感神経の緊張が持続すると、血管が収縮して低体温になり、解糖系のエネルギーが主体となってきます。低体温、低酸素、高血糖の状態が続くと**ガンや糖尿病の体質になっていきます**ので、予防のために、**高体温、高酸素の状態にして、常にミトコンドリア系を優位に保つ**方が良いと言われています。ストレスを少なくして、交感神経の緊張が持続しないようリラックスする時間を取るなどの対処は非常に重要なかもしれません。



豆知識



【 鯖 (やば) 】

秋に獲れた鯖を「秋鯖」、冬に獲れた鯖を「寒鯖」と呼ぶように、一般的に鯖の旬は秋と冬といわれています。また、鯖は種類によって旬が異なります。

・日本が一番ポピュラーな鯖「マサバ」：11月～2月
・年中おいしく食べられる「ゴマサバ」：6月～9月
・「太平洋サバ（ノルウエーサバ）」：11月～2月

【 上手な栄養の取り方 】

鯖は必須アミノ酸がバランスよく含まれている良質なたんぱく源であり、DHAやEPAなど栄養豊富です。

◆ 刺身で食べる

血液サラサラ効果や脳内の情報伝達を助けるDHAやEPAは酸化しやすく、加熱すると流れ出てしまいます。

◆ 緑黄色野菜と一緒に食べる

抗酸化作用のあるビタミンEやβ-カロテンが豊富な食材と一緒に食べることでDHAやEPAの酸化を遅らせることができます。ビタミンEはアーモンド、かぼちゃやモロヘイヤなど、β-カロテンはほうれん草やにんじん、にらなどに豊富に含まれます。

◆ 皮ごと食べる

皮にはビタミンB2が豊富に含まれます。ビタミンB2は脂質をエネルギーに変える際に必要な栄養素であり、脂質が新しい細胞を作る手助けをすることで、皮膚や粘膜などを健康に保つことができます。鯖の背の中央から尾にかけての皮に特に豊富に含まれる為、皮ごと食べると効果的です。

【 おすすめの保存方法 】

鯖をすぐに食べない場合には、**冷凍保存**がおすすめです。丸ごと1尾の場合には、3枚におろして内臓を処理します。塩を振りかけて水分を出し、キッチンペーパーで拭き取ります。1つずつラップで包み、フリーザーパックに入れて空気を抜き、冷凍庫で保管しましょう。冷凍した鯖の**保存期間は約2~3週間**です。なるべく早く調理して、食べきることをおすすめします。

保険医と医師事務作業補助者のための

「実践的診療記録事例集・2024年版」発売中！



～「今を解決する」から「未来を解決する」へ～

